

참고문헌

특집 | 현대 일본사회와 종교

1980년대 소비사회와 소녀 물신주의(fetishism):

창작 주술 불과 전생소녀 현상을 중심으로 | 김효진

그레이버, 데이비드, 『가능성들: 위계, 반란, 욕망에 관한 에세이』, 그린비, 2016.

박규태, 『포스트-옴 시대 일본사회의 향방과 ‘스피리추얼리티’: 옴 사건, 일본교, 네오-내셔널리즘』, 한양대학교출판부, 2015.

사카이 나오키, 『번역과 주체』, 이산, 2005.

浅羽通明, 「オカルト雑誌を恐怖に震わせた謎の投稿少女たち!」, 『別冊宝島92うさわの本』, 宝島社, 1989.

一柳廣孝, 「カリフォルニアから吹く風: オカルトから精神世界へ」, 『オカルトの惑星: 1980年代, もう一つの世界地図』, 青弓社, 2009.

大田利寛, 『現代オカルトの根源: 霊性進化論の光と闇』, ちくま新書, 2013.

大塚英志, 『少女民俗学』, 光文社, 1989.

大塚英志, 『りぼんのふろくと乙女ちっくの時代』, ちくま文庫, 1995.

大塚英志, 『「おたく」の精神史一九八〇年代論』, 講談社, 2004.

オカルト雑学探求倶楽部, 『ム—SPECIAL 戦後日本オカルト事件FILE』, 学研, 2015.

酒井直樹, 『日本思想という問題: 翻訳と主体』, 岩波書店, 1997.

繁富佐貴, 「1980年代の「少女」論の構造」, 『日本女子大学大学院人間社会研究科紀要』15号, 2009.

種田博之, 「占い師の特徴: 現代日本社会における「自発」-「体系的知識」型への傾性」, 『産業医科大学雑誌』23(3), 2001.

難波功士, 「戦後ユース・サブカルチャーズをめぐって(5): コギャルと裏原系」, 『関西学院大学社会学部紀要』100号, 2006.

新山哲, 「人類救済の戦士たちは, チョコバフェがお好き!」, 『いまどきの神さま』, 宝島社, 1990.

橋迫瑞穂, 「「占い・おまじない」と少女: 雑誌『マイバースデイ』の分析から」, 『宗教研究』88(3), 2014.

橋迫瑞穂, 「おまじないゲッズ」における「手づくり」と少女: 『マイバースデイ』の事例から」, 『年報社会学論集』27号, 2014.

橋迫瑞穂, 「〈知識〉としての「占い / おまじない」と少女: 雑誌『マイバースデイ』, 読者投稿欄の分析から」, 『応用社会学研究』, 2016.

堀江宗正, 『若者の気分 スピリチュアリティのゆくえ』, 岩波書店, 2011.

吉田司雄, 「はじめに」, 『オカルトの惑星: 1980年代 もう一つの世界地図』, 青弓社, 2009.

Kinsella, Sharon, "Black Faces, Witches, and Racism against Girls," in L. Miller and J. Bardsley eds., *Bad Girls of Japan*, Palgrave Macmillan, 2005.

Miller, Laura, "The Divination Arts in Girl Culture: Differentiation and Uncertainty," *Capturing Contemporary Japan*, 2014.

현대 일본사회의 요괴 붐 | 박전열

박전열 외, 『현대일본의 요괴문화론』, 제이앤씨, 2014.

ゴトウ マサフミ, 『くつしたがだるだるになっちゃうわけ』, 講談社, 2011.

江馬務, 『日本妖怪変化史』, 中央公論社, 2004(1923).

京極夏彦, 『姑獲鳥の夏』, 講談社, 1998.

高宮哲, 「妖怪ウォッチのヒットでわかった日本人の「妖怪愛」」, 『日経エンタテインメント』, 2015.1.8.

宮田登, 「総説」, 『巫俗と俗信』, 弘文堂, 1980.

宮田登, 『妖怪の民俗学: 日本の見えない空間』, 岩波書店, 1985.

山田奨治, 「怪異・妖怪呼称の名彙とその計量」, 『妖怪文化研究の最前線』, せりか書房, 2009.

小松和彦, 「アニミズムと絵解きが妖怪文化を生み出した」, 『水の文化』 53号, 2016.

小松和彦, 「妖怪」, 『怪異の民俗学2, 妖怪』, 河出書房新社, 2000.

小松和彦, 「妖怪研究の新たな出発にむけて」, 『怪異・妖怪文化の伝統と創造』, 国際日本文化研究センター, 2015.

水木しげる, 「妖怪と人間が共存するまち」, 『水木しげる記念館公式ガイドブック』, 朝日新聞社, 2003.

市川寛也, 「創られる妖怪たち」, 『進化する妖怪文化研究』, せりか書房, 2017.

植村政勝, 「下野国」, 『諸州採葉記』 卷二, 일본국립국회도서관 소장본.

安村敏信, 「娯楽画の系譜」, 『大妖怪展: 鬼と妖怪そしてゲゲゲ』, 三井文庫, 2013.

岩井宏実, 「現代と妖怪」, 『図説日本の妖怪』, 河出書房新社, 2000.

田中貴子 外, 『百鬼夜行絵巻をよむ』, 河出書房新社, 1999.

鳥山石燕, 「今昔百鬼拾遺」, 『画図百鬼夜行』, 国書刊行会, 1992.

板坂耀子, 「採葉記の世界」, 『福岡教育大学紀要』 38, 1989.

香川雅信, 「現代に息づく江戸の妖怪文化」, 『水の文化』 53号, 2016.

香川雅信, 『日本人の妖怪観の変遷に関する研究』, 総合研究大学院大学 博士論文, 2006.

荒俣宏・小松和彦, 『妖怪草紙』, 学習研究社, 1987.

순례와 일본인: 구마노고도(熊野古道)를 중심으로 | 박규태

박규태, 「일본인과 순례: 시코쿠헨로를 따라서」, 『종교문화비평』 9, 2006.

박규태, 『일본 신사(神社)의 역사와 신앙』, 역락, 2017.

원영상, 「일본불교의 영장(靈場)과 성지순례문화 연구」, 『종교연구』 52, 2008.

イアン・リーダー, 「現代世界における巡礼の興隆」, 国際宗教研究所 編, 『現代宗教2005』, 2005.

上野誠, 「日本人の聖地観」, 『宗教と現代がわかる本』, 平凡社, 2016.

岡本亮輔, 「信仰なき巡礼者」, 山中弘 編, 『宗教とツーリズム』, 世界思想社, 2012.

岡本亮輔, 『聖地巡礼』, 中公新書, 2015.

加藤隆久 監修, 『熊野大神』, 戎光祥出版, 2008.

笠原正夫, 「近世の熊野参詣と西国巡礼」, 『鈴鹿国際大学紀要 CAMPANA』 11, 2004.

久保田展弘, 『山岳霊場巡礼』, 新潮選書, 1985.

久保田展弘, 『日本の聖地』, 講談社学術文庫, 2004.

五來重, 『熊野詣』, 講談社学術文庫, 2004.

鈴木景二, 「庶民の熊野詣の諸問題」, 『密教文化』 218, 2007.

星野英紀他 編, 『聖地巡礼ツーリズム』, 弘文堂, 2012.

町田宗鳳, 「原初の聖地・熊野」, 『佛教』 32, 1995.

Moerman, Max, *Localizing Paradise: Kumano Pilgrimage and the Religious Landscape of Premodern Japan*, Harvard University Press, 2005.

파워스팟 체험의 현상학: 현세이익에서 심리이익으로 | 호리에 노리치카

荒川敏彦, 「祈願に対する効果意識: 呪術効果と心理効果」, 竹内郁朗 / 宇都宮京子 編著, 『呪術意識と現代社会: 東京都二十三区民調査の社会的分析』, 青弓社, 2010.

江原啓之, 『スピリチュアル・サンクチュアリ: 江原啓之神紀行』, マガジンハウス, 2004.

岡本亮輔, 「非日常化する伝統宗教と我々の宗教心の行方: スピリチュアル・パワースポットとメディア」, 『中央公論』, 2015. 5.

鎌田東二・津村喬 編, 『天河曼荼羅: 超宗教への水路(チャンネル)』, 春秋社, 1994.

清田益章, 『発見! パワースポット』, 太田出版, 1991.

島田秀平, 『島田秀平と行く! 全国開運パワースポットガイド決定版!!』, 講談社, 2010.

自由国民社, 『現代用語の基礎知識(CD-ROM)』, LogoVista, 2014.

「女性に大ブーム中! お寺や神社巡りが楽しくなる「御朱印集め」の魅力とは?」, 『ANGIE』, 2017. 6. 17.

菅直子, 「パワースポットとしての神社」, 石井研二 編, 『神道はどこへいくか』, ペリカン社, 2010.

「パワースポット人気 県内神社 若者を魅了」, 『読売新聞(島根)』, 2010. 8. 21.

宮本高行, 『世界のパワースポット・分杭峠を100倍楽しむ本』, 学研, 2015.

大和友大朗, 「雑誌記事における明治神宮・清正井のパワースポット化の過程」, 『國學院雑誌』 116巻 11号, 2015.

脇本平也, 「パワースポット」, 『現代用語の基礎知識1986』, 自由国民社, 1986.

DeNAトラベル, 「約4割の人が「パワースポット旅行」の経験アリ!」, 2017. 11. 15. <https://www.atpress.ne.jp/news/143170>(최종 검색일: 2017. 12. 17).

Cohen, Erik, "A Phenomenology of Tourist Experiences," *Sociology* 13(2), 1979.

Cohen, Erik, "Authenticity and Commoditization in Tourism," *Annals of Tourism Research* 15, 1988.

Horie, Norichika, "Spirituality and the Spiritual in Japan: Translation and Transformation," *Journal of Alternative Spiritualities and New Age Studies* 5, 2009.

Horie, Norichika, "The Making of Power Spots: From New Age Spirituality to Shinto Spirituality," in Jørn Borup and Marianne Qvortrup Fibiger eds., *Eastspirit: Transnational Spirituality and Religious Circulation in East and West*, Brill, 2017.

정치 이데올로기적 현상으로서의 자연장(自然葬): '시스템'을 넘어 | 김섯별

송현동, 「리뷰논문: 한국 장례 연구의 경향과 과제」, 『한국문화인류학』 37(2), 2004.

高橋徹, 「後期資本主義社会における新しい社会運動」, 『思想: 特集 新しい社会運動 - その理論的射程』 737号, 1985.

金セツピョル, 「自然葬の誕生: 近代日本的価値の拒否」, 『総研大文化科学研究』 8, 2012.

福田アジオ, 『柳田国男の民俗学』, 吉川弘文館, 1992.

山口定, 『市民社会論: 歴史的遺産と新展開』, 有斐閣, 2004.

森謙二, 「柳田国男と穂積陳重: イデオロギーとしての祖先祭祀」, 『黒木三郎先生古希記念論文集 現代法社会学の諸問題』, 民事法研究会, 1992.

森謙二, 『墓と葬送の社会史』, 吉川弘文館, 2014.

小熊英二, 『1968: 叛乱の終焉とその遺産』, 新曜社, 2009.

岩田重則, 『墓の民俗学』, 吉川弘文館, 2003.

柳田国男, 『先祖の話』, 角川学芸出版, 1946(2013).

作田啓一, 「戦後日本におけるアメリカニゼーション」, 『価値の社会学』, 岩波書店, 2001.

前田俊一郎, 『墓制の民俗学: 死者儀礼の近代』, 岩田書院, 2010.

井上治代, 『墓と家族の変容』, 岩波書店, 2003.

현대 일본사회의 적군 전사자 추도와 내셔널리즘:

흥아관음(興亞觀音)의 사례를 중심으로 | 이세연

김태기, 「『일본회의』의 성장과 종교단체의 역할: ‘생장의 집(生長の家)’을 중심으로」, 남기정 엮음, 『일본 정치의 구조 변동과 보수화』, 박문사, 2017.

박진우, 「네오내셔널리즘과 상징천황제」, 『일어일문학』 19호, 2003.

이규수, 「일본의 전쟁책임문제와 네오내셔널리즘」, 『아시아문화연구』 29호, 2013.

이세연, 『사무라이의 정신세계와 불교: 일본사회의 전사자공양과 怨親平等』, 해안, 2014.

이세연, 「패자 아이즈의 적군 전사자 제사와 그 정치적 맥락들」, 『사람』 57호, 2016.

菅野完, 『日本会議の研究』, 扶桑社, 2016.

君島彩子, 「大阪万博の平和観音: 共生運動の超宗派的展開」, 『近代仏教』 22号, 2015.

君島彩子, 「『平和の象徴』としての観音像: 山崎良順による平和観音像の寄贈活動」, 『仏教文化学会紀要』 25号, 2016.

吉原康和, 『靖国神社と幕末維新の祭神たち: 明治国家の「英霊」創出』, 吉川弘文館, 2014.

藤生明, 『ドキュメント 日本会議』, 筑摩書房, 2017.

毎日新聞 「靖国」取材班, 『靖国戦後秘史: A級戦犯を合祀した男』, 毎日新聞社, 2007.

山崎雅弘, 『日本会議: 戦前回帰への情念』, 集英社, 2016.

山田雄司, 「松井石根と興亜観音」, 『三重大史学』 9号, 2009.

中島岳志・島蘭進, 『愛国と信仰の構造: 全体主義はよみがえるのか』, 集英社, 2016.

塚田穂高, 『宗教と政治の転軸点: 保守合同と政教一致の宗教社会学』, 花伝社, 2015.

연구논단

식민지 여자·제국의 주부·군국의 어머니:

『조선공론』 지면을 통해 본 재조(在朝)일본인 사회의 젠더 담론 | 권숙인

권숙인, 「식민지 조선의 일본인 화류계 여성: 한 게이샤 여성의 생애사를 통해 본 주변부 여성 식민자」, 『사회와 역사』 103집, 2014.

김수진, 『신여성, 근대의 과잉: 식민지 조선의 신여성 담론과 젠더정치, 1920~1934』, 소명출판, 2008.

- 이형식, 「재조일본인 연구의 현황과 과제」, 『일본학』 37, 2013.
- 한일비교문화연구센터, 『朝鮮公論 總目次・人名索引』, 2007.
- 木村健二, 『在朝日本人の社會史』, 未來社, 1989.
- 高崎宗司, 『植民地朝鮮の日本人』, 岩波書店, 2002.
- タニ・バーロウ・伊藤るり・坂本ひろ子 編, 『モダンガールと植民地的近代: 東アジアにおける帝国・資本・ジェンダー』, 岩波書店, 2010.
- Bernstein, Gail Lee, ed., *Recreating Japanese Women, 1600-1945*, University of California Press, 1991.
- Brooks, Barbara J., "Reading the Japanese Colonial Archive: Gender and Bourgeois Civility in Korea and Manchuria before 1932," in Barbara Molony & Kathleen Uno eds., *Gendering Modern Japanese History*, Harvard University Asia Center, 2005.
- Kweon, Sug-In, "Japanese Female Settlers in Colonial Korea: Between the 'Benefits' and 'Constraints' of Colonial Society," *Social Science Japan Journal* 17(2), 2014.
- Levine, Philippa, *Gender and Empire*, Oxford University Press, 2004.
- Stoler, Ann Laura, "Rethinking Colonial Categories: European Communities and the Boundaries of Rule," *Comparative Studies in Society and History* 13(1), 1989.
- Stoler, Ann Laura, *Carnal Knowledge and Imperial Power: Race and the Intimate in Colonial Rule*, University of California Press, 2002.

넷우익을 통해 본 일본 우경화의 정치 동학 | 하종문

- 강기철, 「일본 만화에 나타난 역사 왜곡과 정치적 보수화 연구」, 『인문학논총』 29, 2012.
- 고이치 이와부치·김태균, 「동아시아의 경쟁과 디지털 미디어 그리고 일본의 근접한 적들」, 『아시아 리뷰』 6(2), 2017.
- 김효진, 「기호(嗜好)로서의 혐한(嫌韓) 혐중(嫌中): 일본 넷우익(ネット右翼)과 내셔널리즘」, 『일본학연구』 33호, 2011.
- 김효진, 「혐한 만화를 어떻게 읽을 것인가?: 세이린도(靑林堂)의 최근 출판물을 중심으로」, 『일본연구』 26집, 2016.
- 야스다 고이치·야마모토 이치로·나카가와 준이치로, 최석완·임명수 옮김, 『일본 넷우익의 모순』, 어문학사, 2015.
- 이규수, 「일본 '재특회(在特會)'의 혐한·배외주의」, 『일본학』 38호, 2014.
- 이승희, 「재일코리안 문제를 둘러싼 일본 우익 내부의 균열 양상: 『사피오(SAPIO)』의 '재특회'(在特會) 기사에 대한 분석을 중심으로」, 『일본학』 39호, 2014.
- 이지원, 「일본의 '우경화': '수정주의적 역사인식'과 아베식 '전후체제 탈각'의 한계」, 『경제와사회』, 2014. 3.
- 조관자, 「일본인의 혐한인식: '반일'의 메아리로 울리는 '혐한」, 『아세아연구』 59(1), 2016.
- 황성빈, 「넷우익과 반한류, 배외주의의 여론: 주요 언론의 담론 분석을 중심으로」, 『일본비평』 10호, 2014.